

2024年3月期 第3四半期 Web 決算説明会 主な質疑応答記録

日時:2024年1月31日(水) 12:00 ~ 13:00

出席者: 代表取締役 専務執行役員 経営企画本部長 杉村 英男

<セメントについて>

Q:セメントの利益をQ毎に見ると、2Qは18億円で3Qは25億円、4Qは差し引きで22億円となる見通し。3Q、4Qは、2Qから値上げ効果や石炭コスト下落の効果ほどには利益が伸びていないと感じるが、その理由を伺いたい。

A:値上げの効果や、石炭安による電力コスト減少はあるものの、営業日数減による数量減や、操業度低下による固定費単価増が見込まれており、石炭価格の下落分がそのまま利益に反映される訳ではないと考えている。

<化成品について>

Q:化成品セグメントの通期予想が営業利益で10億円下方修正となっている。その要因を、製品別で説明してほしい。

A:塩ビモノマーと塩ビ樹脂が、特に海外において厳しく、稼働も落としている状況もあり、減益要因と見ている。なお国内のPVCは比較的堅調に推移すると思われる。国内の苛性ソーダは数量が今一つながら単価を堅調にキープできており、比較的状況はいいと考えている。塩カル・ソーダ灰・カレットについては、塩カルが足元少しおちこんでいるものの、持ち直すと見ており、価格修正が進んで利益を確保してきた流れが維持できると見ている。

<石炭について>

Q:来年度上期には安い石炭のメリットを享受できると考えてよいか。

A:使用単価は来年にかけて徐々に下がってくると思われるが、足元需要減による生産減により、現在の価格の高い石炭在庫が残ってくる可能性もある。ただし、今期の期初に比べれば石炭コストは軽減していくものと考ええる。

以上